

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月  
福井市（福井県）

### 全体総括

○計画期間；平成19年11月～平成25年3月（5年5月）

#### 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市の中心市街地では、北陸新幹線の福井延伸を見据え、東西市街地の一体化を目指した連続立体交差事業や土地区画整理事業など長期的な視点に立った大規模な市街地の改造への取り組みを始めた。JR北陸線の高架化に伴い、平成17年には、新JR福井駅の開業と同時に、食料品スーパーや土産物、飲食店などが入った駅に併設するプリズム福井のオープン、平成19年4月にはJR福井駅東口に隣接する再開発ビルAOS SAのオープンなど、徐々に県都の玄関口が生まれ変わりつつあった。

この様な状況の中での人口減少・少子高齢社会の到来に対し、業務・商業など多様な都市機能がコンパクトに集積され、過度に自動車に依存しない持続可能な都市へと転換を図るため、平成19年11月に「福井市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、中心市街地の活性化に取り組んできた。

その結果、平成21年5月に福井駅西口・東口交通広場が暫定整備（西口広場には自家用車やタクシーの乗降場、東口広場には高速バスやタクシー、自家用車の乗降場と短時間駐車場が整備）され、JRや高速バスなどの乗継が便利になるなど中心市街地における公共交通機関の利便性が向上しつつあり、福井駅周辺土地区画整理事業により、駅東側の都心環状線沿いの建物更新が進み、JR福井駅周辺の景観が一新するなど、景観の面でも様変わりしつつある。

しかし、第1期計画に掲げた全77事業について、約88%にあたる68事業に着手し、事業全体では概ね順調に進捗・完了したものの、計画期間中に完了すべき事業であり、主要事業の一つと位置づけた西口中央地区第一種市街地再開発事業の遅れや、西口広場が整備できなかったことなどが一つの要因となり、中心市街地が活性化したとは言えない状況である。

そのような中で、市民活動の面から中心市街地の状況の変化についてみると、JR福井駅周辺に暫定的に整備されたアクティブスペース（福井駅西口芝生広場、JR高架下8ブロック、新幹線高架下5ブロック、えきまえKOOCAN、ガレリアポケット）では、「夢アート」の開催など市民が主体となった文化活動や、イベントやライブ活動などでの利用が増えるなど、市民が文化活動の場として中心市街地を利用している状況が見られるようになってきた。

民間投資の面から見ると、再開発事業により移転整備された病院跡地に大手予備校が開校したことや、優良建築物等整備事業が事業化されるなど、第1期計画策定当初は想定していなかった投資がみられた事など、徐々にではあるものの活性化の芽が着実に育ちつつある。

## 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)  
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

### 【詳細を記載】

全77事業のうち、完了はえちぜん鉄道新駅設置や中央1丁目地区優良建築物等整備事業など30事業、継続はコミュニティバス事業や福井市まちなか住まい支援事業など38事業、未実施は9事業となっており、個々の事業については概ね順調に進捗・完了できた。しかし、主要事業の一つと位置づけた西口中央地区第一種市街地再開発事業について、事業着手には至ったものの、事業の遅れにより計画期間中に完了できなかった。

そのため、3つの指標「公共交通機関乗車数(一日平均)」「居住人口」「歩行者・自転車通行量(休日)」とも数値目標は未達成となり、計画策定時より中心市街地が活性化したとは言えない状況である。

特に、計画期間中に、事業進捗や事業効果の分析や、リーマンショック後の景気低迷による社会経済情勢の変化への対応について、適切なマネジメントが図れなかったことなど、本来の意味で活性化につながる事業を実施できなかったことは猛省しなければならない。

また、県都の玄関口にふさわしい賑わい交流の拠点整備、西口中央地区第一種市街地再開発事業・西口広場の整備、前提条件が整わず着工できなかったえちぜん鉄道の高架化など、活性化の起爆剤ともいえるこれらの事業については、今後着実に事業を実施していかなければならない。

一方で、市民が主体となった文化活動や、イベントやライブ活動などでの利用が増えるなど、市民が文化活動の場として中心市街地を利用している状況が見られるようになってきていることや、浜町界隈における景観整備と食が連携した取組等ハードとソフトが一体となった取組の芽が育ちつつあり、第1期計画の中で取組んできた事業の効果が現れつつある。

## 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(福井市としての見解)

個々の事業については概ね順調に進捗したものの、基本計画に定めた3つの目標のいずれにも深い関わりの事業である西口中央地区第一種市街地再開発事業に遅れが生じたこと、西口広場の整備、えちぜん鉄道の高架化に着手できなかったことに加え、社会経済情勢の変化が要因となり、来街者の目的となる施設整備が完了できず、交流が生まれる環境整備が進まなかった。

しかし、えちぜん鉄道新駅整備や福井駅西口・東口交通広場が暫定整備されたことにより、中心市街地における公共交通機関の利便性が向上しつつあることや、JR福井駅周辺にアク

ティブスペースを暫定的に整備したことが要因となり、文化活動などの場として中心市街地が認知され、市民が主体となったイベントやライブ活動などの利用が増えてきている。

第1期計画の認定を受けたことにより、中心市街地活性化に対する機運が高まり、官民が連携し、それぞれの役割を果たすことによる活性化推進が必要であるという共通認識が生まれたことは、今後も継続して中心市街地活性化に取り組んでいくうえで大きな成果といえる。

第2期計画では、第1期計画の反省を踏まえ、官民協働により、引き続き国の積極的な支援を活用しながら、来街者の目的となりうる施設の整備や、市民活動の力を活かしていくようなイベントの支援を実施していかなければならない。

#### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

##### 【詳細を記載】

平成19年度に策定された第1期の福井市中心市街地活性化基本計画では、「公共交通乗車数(一日平均)」「居住人口」「歩行者・自転車通行量」の3つの指標を掲げ、まちなかのにぎわい創出に向けて事業が展開された。しかし、この3つの指標全てにおいて達成に至らず、大いに反省すべき結果となった。

達成に至らなかった要因としては、活性化基本計画には77にのぼる事業が掲載されているが、結果として指標と結びつかない事業や計画策定以前からの既存事業が多くを占め、直接的効果を図るいわば“真水”の活性化事業が少なかったことが挙げられる。とくに、計画のメインに位置付けられていた再開発事業等が予定通り進まなかったことは、個別指標の目標達成に大きなマイナス要因といえよう。

こうした状況を踏まえ、次期計画においては実際に有効性のある事業を、スピード感を持って遂行していくことが不可欠である。同時に、行政・協議会・市民・各種団体がともに手を携えて協働し、リアルタイムに事業の改善や修正を図ることができるよう、新たに官民が一丸となった「中心市街地マネジメント会議」を設け、実効性の高い活性化を進めていくことが必要である。

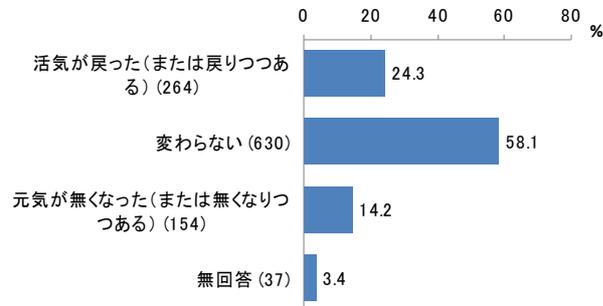
#### 5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

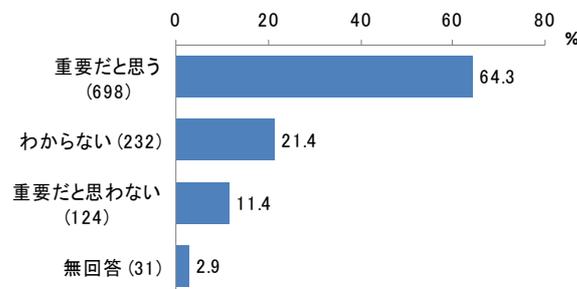
##### 【詳細を記載】

市民意識の変化や施策の効果を把握するとともに、その結果を次の施策立案に反映させるため、毎年「福井市民意識調査」を実施している。

平成24年度に実施した市民意識調査から「中心市街地の印象の変化」についてみると、平成18年ごろ（JR福井駅高架化、プリズム福井、AOSSA開業前後）の中心市街地と比べて、「変わらない」と回答した人が最も多く58.1%、「活気が戻った（または戻りつつある）」と回答した人24.3%、「元気が無くなった（または無くなりつつある）」と回答した人が14.2%であり、「活気が戻った（または戻りつつある）」が10.1%多くなっている。



引き続き中心市街地の活性化に取り組むことの必要性については、64.3%の人が「重要だと思う」と回答しており、6割以上の人が重要性を感じている。



また、本市の主な19の施策について、その満足度及び重要度に関する調査を平成23年度まで毎年実施している。重要度の調査で「賑わいのある中心市街地をつくる」は常に上位にランク付けされ、平成22年以後は最も多くなっている。また、その割合は徐々に多くなってきており、平成21年には30.1%であり、市民のほぼ3割が重要な施策であるとの評価となっている。

平成23年の満足度と重要度の関係を見ると、「賑わいのある中心市街地をつくる」は満足度が最も低く、重要度が最も高くなっている。

表 特に重点的に取り組むべき施策

	上位1位	上位2位	上位3位
H23年	賑わいのある中心市街地をつくる (30.1%)	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.1%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.5%)
H22年	賑わいのある中心市街地をつくる (28.8%)	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.5%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.6%)
H21年	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.0%)	賑わいのある中心市街地をつくる (24.7%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.6%)
H20年	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (28.1%)	賑わいのある中心市街地をつくる (26.1%)	子どもたちの生きる力を育てる (23.0%)

資料：福井市民意識調査

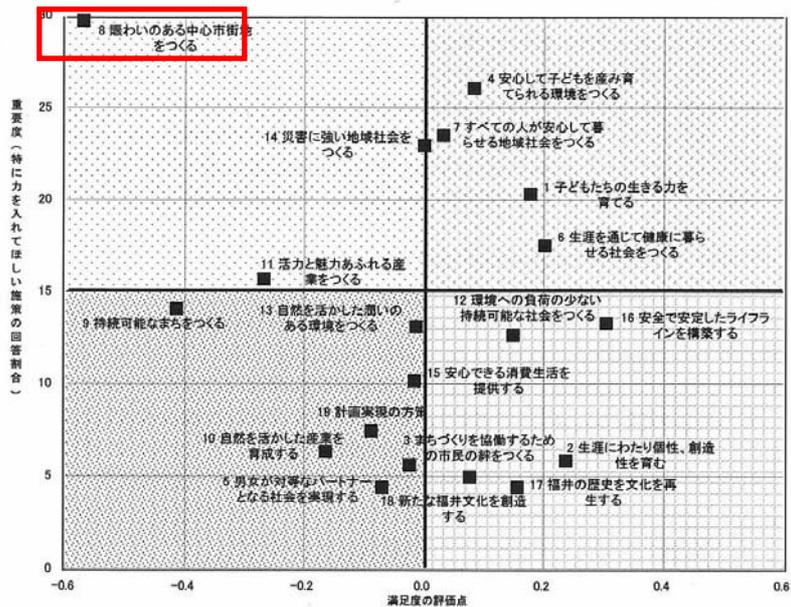


図 19 の施策の満足度と重要度の関係 (H23)

## 6. 今後の取組

本市の都市づくりを進めるための総合的な指針である「福井市都市計画マスタープラン」では、商業施設や業務施設をはじめとした都市機能の集積を活かしながら、中心市街地を『にぎわい交流拠点』として位置付け、『にぎわい交流拠点』づくりを先導するのが中心市街地の活性化であるとしている。つまり、『にぎわい交流拠点』づくりに中心市街地の活性化は欠かせない。

したがって、第2期計画では、『にぎわい交流拠点』づくりを重視して中心市街地活性化に取り組んでいくこととする。

そのため、市民が文化活動の発表の場を中心市街地に求めている状況を踏まえ、市民活動の力を活かしていくような、来街者の目的となりうる施設やイベントの開催により、中心市街地にさまざまなジャンルの人が集うことを目指す。

また、目前に迫った北陸新幹線の金沢開業に対し、中心市街地での観光強化は必須である。増加が予測される関東・信越方面からの観光客を福井にまで呼び寄せ、リピーターとする必要がある。そこで、福井の強みである「食」を活かしたおもてなしを強化するための新規事業を立ち上げる。加えて、名君の誉れ高い松平春嶽や、橋本左内、由利公正など幕末の志士達の活躍の舞台となり「歴史」が色濃く残る場所を生かし、歴史の厚みが感じられる緑豊かな空間形成に向けた取組を強化する。

さらに、第1期計画で掲げた主要事業が完了できず、第2期計画に継続となってしまった状況を踏まえ、第1期計画で取り組んできた多くの事業をベースとして、民間の活力や創意工夫をまちづくりに積極的に取り込むために、各主体が連携し、マネジメント会議を立ち上げ、第2期計画にかかげた事業を確実に推進していく。

活発な交流が生まれるような市民や民間事業者の活動に対して、行政の支援体制を整えるという方向性も加えて、事業者（商店街）、地元関係者、市民団体・NPO、まちづくり会社、中心市街地活性化協議会と行政が力を合せて中心市街地の活性化に取り組んでいく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
訪れやすい環境をつくる	公共交通機関乗車数 (鉄道一日平均)	13,592	15,300	13,946	H24	<u>b</u>
居住する人を増やす	居住人口	4,474	5,200	4,330	H24.10	<u>c</u>
歩いてみたくなる魅力を高める	歩行者・自転車 通行量(休日)	43,440	52,500	38,634	H24.7	<u>c</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

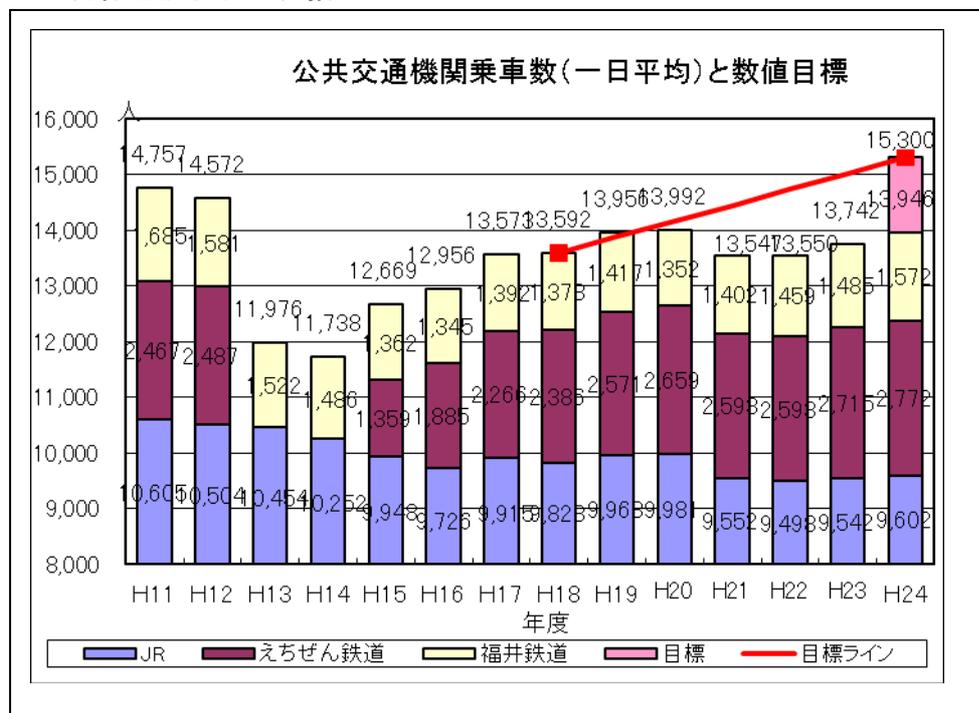
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

目標「訪れやすい環境をつくる（出会い）」

「公共交通機関乗車数」※目標設定の考え方基本計画 P37～P40 参照

### 1. 目標達成状況の総括



年	(人/日)
H18	13,592 (基準値)
H19	13,956
H20	13,992
H21	13,547
H22	13,550
H23	13,742
H24	13,946
H24	15,300 (目標値)

※調査方法；中心市街地内に乗入れている各交通機関の公表データ集計

※調査月；3月

※調査主体；西日本旅客鉄道株式会社、えちぜん鉄道株式会社、福井鉄道株式会社

※調査対象；JR（福井駅）・えちぜん鉄道（福井駅、新福井駅）・福井鉄道（市内路面区間）乗車数

#### 【総括】

- ・訪れやすい環境をつくるの目標指標である公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）は、目標値 15,300 人/日に対し 13,946 人/日にとどまり、目標値の 90% の水準であり、目標達成できなかった。
- ・目標達成できなかった原因としては、えちぜん鉄道の LRT 化の前提条件が整わなかったことにより JR 福井駅西口における交通結節機能の強化が図れなかったこと、福井駅西口再開発事業の遅れにより観光情報発信機能が欠如したままであること、事業所数が伸びていないなど就労場所の不足、各種の市民意識調査でいわれている JR 福井駅前の福井らしさ（アイデンティティ）の欠如などが挙げられる。
- ・一方、えちぜん鉄道の乗車数は、新駅の開業などにより、基準値の 1.16 倍（386 人増）に増加した。特に、新駅開業の効果は、当初予想（100 人）を上回る 130 人となった。また、福井鉄道の乗車数は、パークアンドライド駐車場などの設置により、基準値の 1.14 倍（194 人増）となるなど、地方鉄道の中心市街地における乗車数が増加してきた。
- ・公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）は、平成 14 年から平成 20 年まで増加傾向を示していたが、平成 21 年に減少に転じた。その後再び増加し、平成 24 年には基準値（平成 18 年 13,592 人）より 350 人多い 13,946 人、目標値（平成 24 年 15,300 人）の 91% の水準とな

った。

- ・鉄道会社別にみると、JRの乗車数が基準値より減少し、えちぜん鉄道、福井鉄道の乗車数は増加している。
- ・えちぜん鉄道の乗車数は、平成24年には2,772人であり、基準値（平成18年2,386人）を386人上回り、基準値の1.16倍となった。また、福井鉄道の乗車数は、平成24年には1,572人であり、基準値（平成18年1,395人）を177人上回り、基準値の1.12倍となった。
- ・JRの乗車数は、平成24年には9,602人であり、基準値（平成18年9,828人）より226人少なく、基準値の98%の水準となった。乗車数減少の要因の一つとして、休日の高速道路上限料金1,000円が平成21年3月から始まったことが、観光や買物などを目的とする定期外の乗車数の減少に影響を与えた。
- ・目標達成に寄与する主要事業として位置付けていた「えちぜん鉄道の新駅整備事業」の効果を見ると、想定乗車数（100人/日）を上回る乗車数（130人/日）となったこと、パークアンドライド駐車場の設置などにより福井鉄道の乗車数の増加が（基準値の1.12倍、177人増）が見込まれること、AOSSAの開業による乗車数の増加548人/日（想定乗車数620人/日）が見込まれることなど、訪れやすい環境を整備するための事業効果は、着実に現れている。
- ・しかしながら、数値目標達成のための主要な事業として位置付けていた「えちぜん鉄道三国芦原線のLR T化」は、北陸新幹線の福井延伸の認可が見送られていたため、地域の鉄道網全体計画との整合性の観点から事業が進められなかったことや、「西口中央地区第一種市街地再開発事業」については、予定していた企業の事業参画が困難となったことから事業再構築の必要性が生じ、事業進捗に影響が出るなど、主要な事業の遅れが目標達成に影響を与えた。

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

### ①. えちぜん鉄道新駅整備事業（えちぜん鉄道株）

支援措置名及び支援期間	鉄道軌道近代化設備整備費補助 平成19年度
事業開始・完了時期	【済】H19年8月
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線の福大前西福井―新田塚駅間に、新駅2箇所を整備（八ツ島駅、日華化学前駅）
目標値・最新値	認定時の来街者の増加見込み：100人/日 最新値：130人/日（平成24年度）
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	新駅の整備により、鉄道利用の利便性が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	福井駅・新福井駅の利用者は見込みより多くなっており、今後も利用者の増加を見込んでいる。
事業の今後につ	実施済み

いて	
----	--

②. えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化（公共交通事業者、福井県、福井市）

支援措置名及び支援期間	地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通確保維持事業/地域公共交通バリア解消促進等事業/地域公共交通調査事業） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線を福井鉄道の路面軌道区間へ乗り入れLRT化する。また、福井鉄道をえちぜん鉄道三国芦原線へ乗り入れ、相互直通運行とする。そのために必要な交通結節機能の強化を図るため周辺整備を行う。
目標値・最新値	認定時の乗車数見込み：420人/日（内訳：えちぜん鉄道福井駅・新福井駅の見込み乗車数：210人/日、福井鉄道市内路面区間の見込み乗車数：210人/日）
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	北陸新幹線の福井延伸が見送られていた状況の中、事業着手のための前提条件が整わなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	未着工
事業の今後について	東側単独高架で、福井駅に結節することになったため、関係者間で再検証を行っていく。

③. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H19年度～H24年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
目標値・最新値	認定時の乗車数見込み：410人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	予定していた企業の事業参画が困難になったことから、事業の再構築が必要になったことで進捗の遅れが生じたため
計画終了後の状況（事業効果）	再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、平成24年6月に再開発組合が設立された。
事業の今後について	今後着実な事業の実施が見込まれる。

④福井駅高架下利用促進事業（福井市）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	【済】H21年11月
事業概要	高架下を利用して商業拠点を整備する。
目標値・最新値	認定時の来街者増加の見込み：40人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかった）理由	福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の遅れ等により、現時点 では商業施設を整備しても事業が成り立たないため。
計画終了後の状 況（事業効果）	H13年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的 に整備した。
事業の今後につ いて	実施済み

### 3. 今後について

JR福井駅を中心とする中心市街地は、平成26年度末の北陸新幹線金沢開業、さらには平成37年の福井延伸が決まり、福井県嶺北地域一円からだけでなく、関東や信越方面からも直接来ることができる立地特性を有することになり、県都の玄関口として、ますます重要な位置付けを持つことになる。このことを踏まえ、第2期計画では、特に「食」と「歴史」に重心を置き、JR福井駅周辺で福井の食を提供する「食の拠点」整備事業や「食の拠点」と連携したイベントの継続的な実施、歴史資源を活かした福井城址周辺整備事業など、以下のように事業を展開する。

**【行き交いのいろどりを整える事業の展開】**

- ・東西市街地の一体化や骨格道路のネットワークの強化など都市構造の再編・強化
- ・鉄道やバスなど相互乗換の利便性向上に向けた交通結節機能の強化
- ・利用促進に向けた公共交通サービスの向上
- ・まちなかで気軽に移動できる自転車利用環境の向上

**【おもてなしのいろどりを整える事業の展開】**

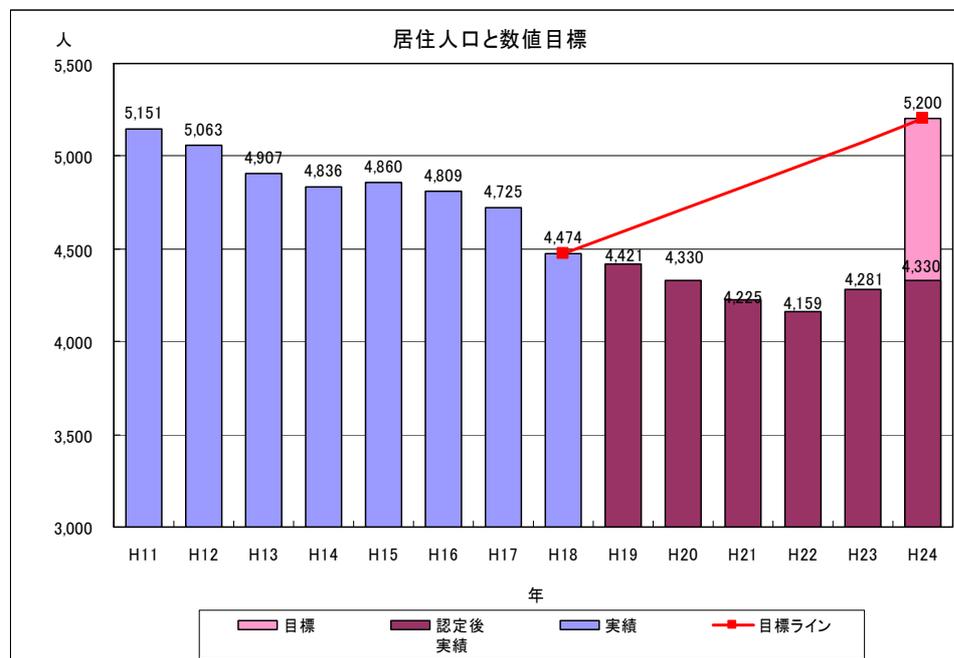
- ・福井らしさを創造・発信・体感できる賑わい交流の拠点の形成
- ・福井の食や歴史といった魅力を発見できるまちなか観光資源の魅力向上
- ・来街者をもてなすコンシェルジュサービスの充実

## 個別目標

目標「居住する人を増やす（暮らし）」

「目標指標名」※目標設定の考え方基本計画 P41～P42 参照

### 1. 目標達成状況の総括



年	(人)
H18	4,474 (基準値)
H19	4,421
H20	4,330
H21	4,225
H22	4,159
H23	4,281
H24	4,330
H24	5,200 (目標値)

資料：福井市住民基本台帳（各年 10 月 1 日）

#### 【総括】

- ・居住する人を増やすの目標指標である居住人口は、目標値 5,200 人に対し 4,330 人とどまり、目標値の 83%の水準となり、目標達成できなかった。
- ・目標達成できなかった原因としては、高齢化率が高く自然減の傾向が顕著であることや、生活利便施設の不足などが考えられる。
- ・平成 16 年以降中心市街地の人口は減少を続けてきたが、平成 23 年にはじめて増加に転じた。自然減は続いているものの、優良建築物等整備事業などによる 195 戸の住宅を含む 250 戸を超える住宅の供給により、平成 23 年に 146 人、平成 24 年に 84 人の社会増となるなど居住する人は増えている。
- ・中心市街地の人口は減少し続けていたものの、平成 23 年に人口増加に転じた。優良建築物等整備事業が行われた地区（中央 3 丁目、大手 2 丁目）や新規にマンションが供給された地区（中央 2 丁目）で増加し、その他の地区では減少していることから、中心市街地において居住人口を増やすための事業に取り組んできたことで、一定の成果が表れた。
- ・年齢階層別の傾向をみると、高齢者の割合が高まる一方で、地域の担い手となるべき若年世代の減少が続いている。
- ・高齢者の割合が高いという中心市街地の人口構成を踏まえると、今後も自然減による人口減少の傾向が続くと予想される。
- ・主要な事業の一つに位置付けられている「福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業」の遅れも目標達成に深刻な影響を与えた。

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

### ①. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H19年度～H24年度
事業開始・完了 時期	【未】H24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
目標値・最新値	認定時の住宅戸数見込み：130戸
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかった）理由	予定していた企業の事業参画が困難になったことから、事業の再構築が必要になったことで進捗の遅れが生じたため
計画終了後の状 況（事業効果）	事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、平成24年6月に再開発組合が設立された。
事業の今後につ いて	今後着実な事業の実施が見込まれる。

### ②. 中央1丁目（駅前南通り）地区優良建築物等整備事業（合同開発株）

支援措置名及び 支援期間	優良建築物等整備事業 平成19年度～平成21年度
事業開始・完了 時期	【済】H22年1月
事業概要	延床面積：約10,000㎡、構造・階数：SRC造・地上14階、居住施設、商業施設、駐車場
目標値・最新値	認定時の住宅戸数見込み：69戸 施設建築物の工事が完了し、75戸の住宅が供給された。
達成状況	目標達成
達成した（出来 なかった）理由	施設建築物の工事が予定通り完了したため。
計画終了後の状 況（事業効果）	成約戸数は順調に伸びており、今後も居住人口の増加（自然増・社会増）が期待できる。
事業の今後につ いて	実施済み

### ③. 中央3丁目地区優良建築物等整備事業（日本システムバンク株）

支援措置名及び 支援期間	優良建築物等整備事業 平成19年度～平成21年度
-----------------	-----------------------------

事業開始・完了時期	【済】 H21年 12月
事業概要	延床面積：約 4,000 m <sup>2</sup> 、構造・階数：SRC 造・地下 1 階地上 12 階、居住施設、コミュニティルーム、駐車場
目標値・最新値	認定時の住宅戸数見込み：30 戸 施設建築物の工事が完了し、 <u>33 戸</u> の住宅が供給された。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	施設建築物の工事が予定通り完了したため。
計画終了後の状況（事業効果）	成約戸数が 100% を達成し、今後も居住人口の増加（自然増・社会増）が期待できる。
事業の今後について	実施済み

④. ウララまちなか住まい事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	地域住宅交付金 平成19 年度～平成20 年度
事業開始・完了時期	【済】 H21年 3月
事業概要	都心居住推進区域内【中心市街地の区域（105ha）及び市街地中心部（630ha）】での良質な住宅の供給を支援する（共同住宅建設補助、共同住宅リフォーム補助、戸建て住宅補助、若年・子育て世帯定住支援）。
目標値・最新値	認定時の住宅戸数見込み：22 戸 事業が完了し、53 戸に対して補助を行った。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の更新時期を迎えた建物のリフォームや建替えの需要が多くみられたため。
計画終了後の状況（事業効果）	今後も居住人口の増加（自然増・社会増）が期待できる。
事業の今後について	実施済み

⑤. 大手 2 丁目地区優良建築物等整備事業（大和ハウス工業㈱）

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	【済】 平成 23 年 3 月
事業概要	延床面積：約 11,000 m <sup>2</sup> 、構造・階数：RC 造・地上 14 階、居住施設、診療所、駐車場

目標値・最新値	認定時の住宅戸数見込み：85戸 施設建築物の工事が完了し、87戸の住宅が供給された。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	施設建築物の工事が予定通り完了したため。
計画終了後の状況（事業効果）	成約戸数は順調に伸びており、今後も居住人口の増加（自然増・社会増）が期待できる。
事業の今後について	実施済み

⑥. 城の橋通り地区優良建築物等整備事業（合同開発株）

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成21年度～平成23年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	延床面積：約4,000㎡、構造・階数：SRC造・地上10階、居住施設、店舗、事務所、駐車場
目標値・最新値	
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	施行者代表である民間事業者が、平成24年2月に自己破産し施設建設の見通しが立たないため
計画終了後の状況（事業効果）	建設の見通しは立っていない。
事業の今後について	事業の施行区域全体での不動産売買を模索しているが、現在も売却先の目処がついておらず、今後の事業継続の可能性は極めて低い。

3. 今後について

中心市街地における居住・生活環境の維持・増強や就業環境の充実、地域コミュニティの維持はもちろん、中心商業地の機能存続や魅力の再生を図る上でも重要な要素であることを踏まえ、第2期計画では以下のように事業を展開する。

【魅力ある住まいの環境を充実する事業の展開】

- ・居住ニーズに柔軟に対応するための既存ストックの有効活用
- ・居住環境の改善に向けた建替え居住の促進
- ・コミュニティの維持、強化に向けたまちなか居住に対するPRの強化

【魅力ある生活の環境を充実する事業の展開】

- ・生活利便性の向上をはじめとした中心商業地の機能の充実
- ・住み続けたいと思えるような暮らしやすさを支える基盤施設の充実

【魅力ある働く環境を充実する事業の展開】

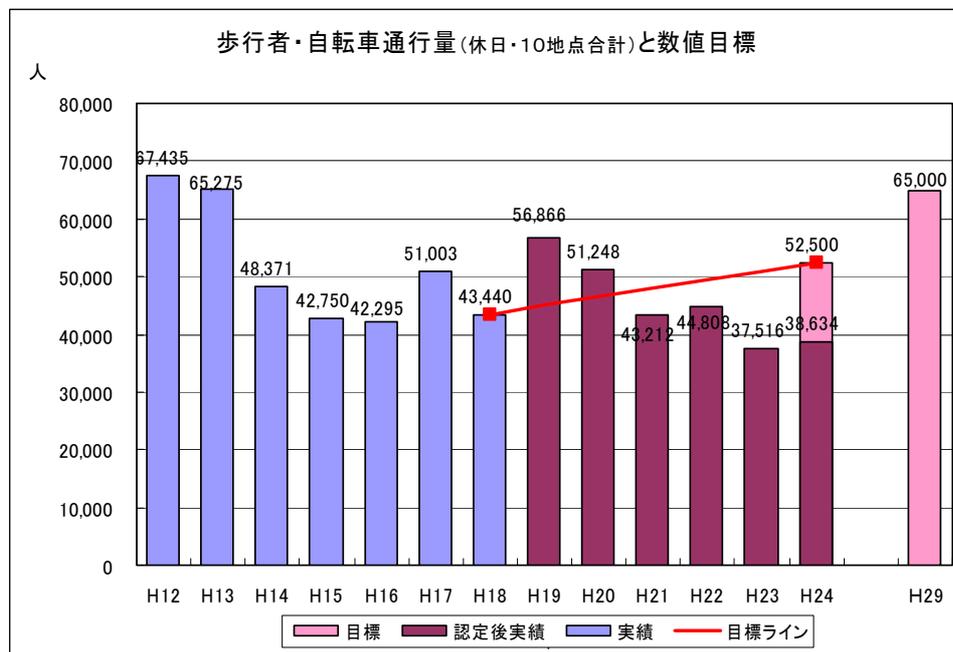
- ・企業立地を促進し、働く場としての受け皿の充実や魅力向上

## 個別目標

### 目標「歩いてみたくなる魅力を高める（遊び）」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P43～P46 参照

#### 1. 目標達成状況の総括



年	(人/日)
H18	43,440 (基準値)
H19	56,866
H20	51,248
H21	43,212
H22	44,808
H23	37,516
H24	38,634
H24	52,500 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査

※調査月；7月実施

※調査主体；まちづくり福井㈱

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、休日10地点

#### 【総括】

- ・歩いてみたくなる魅力を高めるの目標指標である歩行者・自転車通行量（休日）は、目標値 52,500 人/日に対し、38,634 人/日にとどまり、目標値の 74% の水準となり、達成できなかった。
- ・歩行者・自転車通行量（休日）は、第1期計画認定後も減少傾向が続いている。
- ・中心市街地内での主な取組と歩行者・自転車通行量（休日）の関係を見ると、平成 17 年の JR 福井駅及びプリズム福井のオープンや平成 19 年の AOS SA のオープン時には歩行者・自転車通行量が増加していることから、ハード事業による事業効果は発現している。
- ・活性化のための多くの取組が最も集中している福井駅周辺の代表地点である駅前アーケードについてみると、まちづくり活動推進事業や中心市街地商業コーディネート事業などによる取組の効果が現れている。
- ・主要な事業として位置付けていた「西口中央地区第一種市街地再開発事業」、「えちぜん鉄道三国芦原線の LRT 化」などの事業の遅れが目標達成に影響を与えた。
- ・目標指標としていた公共交通機関乗車数や居住人口が目標値を達成していないこと、すまいるバスの利用者数が平成 19 年をピークに減少に転じていることの影響もあわせて受けているものと思われる。
- ・JR 福井駅及びプリズム福井のオープンや、AOS SA のオープンにより、一時的に歩行者・自転車通行量は増加したものの、総じて減少傾向にあることから、継続して対策を講じていく必要がある。
- ・アクティブスペースを整備したことにより、中心市街地において市民を主体とする文化イベントやライブ活動などが数多く実施されたこと、AOS SA がオープンしたこと、さらには第1期計画に位置付けている事業の推進などにより大手専門学校が開校したことにより、中心市街地内で若者の回遊が見られるようになってきた。
- ・年間を通して見た場合、冬季のイベントが少ないことや平日・休日を問わない日常的な販

わいが必要なことなどが挙げられる。

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

### ①. 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H19年度～H24年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：2,710人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	予定していた企業の事業参画が困難になったことから、事業の再構築が必要になったことで進捗の遅れが生じたため
計画終了後の状況（事業効果）	再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、平成24年6月に再開発組合が設立された。
事業の今後について	今後着実な事業の実施が見込まれる。

### ②. 福井駅高架下利用促進事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	【済】H21年11月
事業概要	高架下を利用して商業拠点を整備する。
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：390人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の遅れ等により、現時点では商業施設を整備しても事業が成り立たないため。
計画終了後の状況（事業効果）	H13年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的に整備した。
事業の今後について	実施済み

### ③. 公共交通機関に対する取組による来街者増加の見込み

#### 1) えちぜん鉄道新駅整備事業

支援措置名及び支援期間	鉄道軌道近代化設備整備費補助 平成19年度
事業開始・完了時期	【済】H19年8月
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線の福大前西福井－新田塚駅間に、新駅2箇所を整備（八ツ島駅、日華化学前駅）
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：400人/日 2駅による中心市街地来街者数は130人/日であることから、歩行者・自転車通行量は520人/日となり、当初の見込みより120人/日多い。
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	新駅の整備により、鉄道利用の利便性が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	福井駅・新福井駅の利用者は見込みより多くなっており、今後も利用者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	実施済み

2) えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化【再掲】

支援措置名及び支援期間	地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通確保維持事業/地域公共交通バリア解消促進等事業/地域公共交通調査事業） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線を福井鉄道の路面軌道区間へ乗り入れLRT化する。また、福井鉄道をえちぜん鉄道三国芦原線へ乗り入れ、相互直通運行とする。そのために必要な交通結節機能の強化を図るため周辺整備を行う。
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：1,680人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	北陸新幹線の福井延伸が見送られていた状況の中、事業着手のための前提条件が整わなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	未着工
事業の今後について	東側単独高架で、福井駅に結節することになったため、関係者間で再検証を行っていく。

④. 居住者増分

1) 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H19年度～H24年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：2,710人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の再構築が必要になったことで進捗の遅れが生じたため
計画終了後の状況（事業効果）	再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、平成24年6月に再開発組合が設立された。
事業の今後について	今後着実な事業の実施が見込まれる。

2) 中央1丁目（駅前南通り）地区優良建築物等整備事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成19年度～平成21年度
事業開始・完了時期	【済】H22年1月

事業概要	延床面積：約 10,000 m <sup>2</sup> 、構造・階数：SRC 造・地上 14 階、居住施設、商業施設、駐車場
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：260 人/日 歩行者・自転車通行量は 233 人/日となり、当初の見込みより 27 人/日少ない。
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	施設建築物の工事が完了して、75 戸の住宅が供給されたが、成約戸数は 62 戸にとどまっているため。
計画終了後の状況（事業効果）	成約戸数は順調に伸びており、今後も居住人口が増えることで通行量の増加が期待できる。
事業の今後について	実施済み

### 3) 中央 3 丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成 19 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	【済】H21 年 12 月
事業概要	延床面積：約 4,000 m <sup>2</sup> 、構造・階数：SRC 造・地下 1 階地上 12 階、居住施設、コミュニティルーム、駐車場
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：110 人/日 歩行者・自転車通行量は 124 人/日となり、当初の見込みより 17 人/日多い。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	成約戸数が 100%を達成したため。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口が増えることで交通量の増加が期待できる。
事業の今後について	実施済み

### 4) ウララまちなか住まい事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	地域住宅交付金 平成19 年度～平成20 年度
事業開始・完了時期	【済】H21 年 3 月
事業概要	都心居住推進区域内【中心市街地の区域（105ha）及び市街地中心部（630ha）】での良質な住宅の供給を支援する（共同住宅建設補助、共同住宅リフォーム補助、戸建て住宅補助、若年・子育て世帯定住支援）。
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：60 人/日 優良建築物等整備事業を除く物件について、53 戸に対して補助を行なったので、歩行者・自転車通行量は 133 人/日となり、当初の見込みより 73 人/日多い。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の更新時期を迎えた建物のリフォームや建替えの需要が多くみられたため。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口が増えることで交通量の増加が期待できる。
事業の今後について	実施済み

5) 大手2丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成20年度～平成22年度
事業開始・完了時期	【済】平成23年3月
事業概要	延床面積：約11,000㎡、構造・階数：RC造・地上14階、居住施設、診療所、駐車場
目標値・最新値	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：319人/日 歩行者・自転車通行量は323人/日となり、当初の見込みより4人/日多い。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	施設建築物の工事が完了して、87戸の住宅が供給され、成約戸数も86戸に達したため。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口が増えることで交通量の増加が期待できる。
事業の今後について	実施済み

6) 城の橋通り地区優良建築物等整備事業【再掲】

支援措置名及び支援期間	優良建築物等整備事業 平成21年度～平成23年度
事業開始・完了時期	【未】H24年度
事業概要	延床面積：約4,000㎡、構造・階数：SRC造・地上10階、居住施設、店舗、事務所、駐車場
目標値・最新値	
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	施行者代表である民間事業者が、平成24年2月に自己破産し施設建設の見通しが立たないため
計画終了後の状況（事業効果）	建設の見通しは立っていない。
事業の今後について	事業の施行区域全体での不動産売買を模索しているが、現在も売却先の目処がついておらず、今後の事業継続の可能性は極めて低い。

3. 今後について

本市の中心市街地は、鉄道駅に近接し、自動車や自転車、公共交通機関などの多様な交通手段で、人が集まることができる立地特性を有している。

この特性を活かしながら、来街者が雨や雪を避けて回遊できる魅力的な空間づくりと、市民を主体とした様々な活動を支援し、中心市街地におけるにぎわいを創出するために、第2期計画では以下のように事業を展開する。

【歩きたくなる素敵な境界形成を推進する事業の展開】

- ・ 歩行空間と沿道の店舗などが一体となった洗練された魅力的な空間形成
- ・ 若者によるまちなかへの出店、積極的な起業支援による新たな魅力の創造
- ・ 継続的ににぎわいの舞台づくりの推進

【多様な余暇活動の舞台として演出する事業の展開】

- ・ 市民や来訪者による多様な交流を育むまちなか交流施設の整備
- ・ 既存イベントの活性化や、新たなイベントの開催など、にぎわいを生むイベントの展開
- ・ 官民が連携した効果的なPRと情報発信